

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3873500478		
法人名	社会福祉法人エンゼル		
事業所名	グループホーム玉泉		
所在地	愛媛県伊予郡松前町北川原3番地1 (電話) 089-984-6407		
管理者	中矢 康子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年6月30日	評価確定日	平成20年8月21日

【情報提供票より】 (平成20年6月20日事業所記入)

(1)組織概要					
開設年月日	平成13年10月15日				
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人		
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人		
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)					
家賃(平均月額)	47,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる		
敷金	有(円) (無)				
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / (無)		
食材料費	朝食	300円	昼食	400円	
	夕食	500円	おやつ	100円	
	または1日当たり 1,300円				
(3)利用者の概要 (平成20年6月20日現在)					
利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	94歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算					
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護				
指定 (あり)・なし	指定認知症対応型通所介護				
届出	あり・(なし)	短期利用共同生活介護			
加算	あり・(なし)	医療連携体制加算			

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>料理が得意な利用者が多く、利用者が主になって食事の支度をされていた。職員は、料理方法を教わるが多くある。 利用者皆でゆったり座れるよう、丸いテーブルに替えられた。時代劇やスポーツ観戦がお好きな方が多く、テレビの前には大きなソファが2つ置かれていた。エレベーター内にもベンチが置かれており、利用者が暮らしやすいような設備や配置への気配りがうかがえた。 毎日、庭を散歩することが日課になっている。庭には狸ロードや狸神社が造られてあり、たくさんの樹木や草花が植えられている。敷地内の喫茶店「おもや」でお茶も楽しめるようになっている。毎日の近所の神社や幼稚園への散歩を楽しみにしている方も支援されている。</p>

【質向上への取組状況】

<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の評価結果を受けて、地域に開かれた事業所を目指し、まずは、同建物の併設施設と事業所を区切る扉を開放された。開放的な環境となり、事業所を訪れる方も増えた。
<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員で話し合い、自己評価に取り組みました。
<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議には、地域の方や支援センター、ご家族等、いろいろな立場の方に出席いただき、開催されている。事業所の行事についてもアイデアをいただいた。
<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所では、利用者個別に日々の生活のことや職員の写真等を入れた便りを作成し、ご家族に近況を報告されている。毎週来訪のあるご家族や仕事前に立ち寄って下さるご家族もあり、その都度、報告を行い、ご家族のお話を聞いておられる。
<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の区長や役員の方々から地域行事の情報を得られ、祭りや運動会等の行事に利用者とともに参加されている。地域の生きがいサロンで行われたカーリングにも、利用者全員で参加して楽しまれた。

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム玉泉

(ユニット名)

グループホーム玉泉

記入者(管理者)

氏名

中矢 康子

評価完了日

平成 20 年 6 月 20 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			家族や地域の方々との連携を深められるようホーム独自の理念を掲げ、入居者の状況に合わせた援助を行っている。理念を基に、スタッフ会等にて話し合いを持ち、援助に努めている。		
			(外部評価)		
			事業所では、「地域の中にかかれたグループホームを目指す」ことに向けて、取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			月1回定期的にスタッフ会を開催し、話し合う時間を設けている。 理念に向けて取り組んでいるが、反省点や改善点まで踏み込んだ話し合いが不十分である。		反省点を含めスタッフ会において、理念実現に向けた話し合いを持つ。
			(外部評価)		
			月1回のスタッフ会で、理念に基づき、話し合いが行われている。		さらに、理念の実現に向けて職員が一丸となって取り組めるよう、職員が理念に立ち戻り、考えるような機会を増やしていかれてはどうだろうか。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			ホーム独自のパンフレットを作成し、地域や生きがいサロンのの方々への配布及び見学会を実施している。法人としても、パンフレット配布や便り・ホームページを作成し取り組んでいる。		さらに地域に向けて自治会等の説明会等を検討し、取り組んでいく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩コースとして、近隣の神社や幼稚園への訪問を行っており、住民の方々と挨拶程度の会話は行えているが、ホームへの訪問までには至っていない。少しずつだが地区の祭りや行事に参加し、地域の方々との交流が図れている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の幼稚園との交流は図れているが、自治会などの参加は施設全体で行っており、ホーム独自では行えていない。地区の祭りや行事に参加し、地域の方々との交流が図れるよう努めている。 (外部評価) 地域の区長や役員の方々から地域行事の情報を得られ、祭りや運動会等の行事に利用者とともに参加されている。地域の生きがいサロンで行われたカーリングにも、利用者全員で参加して楽しまれた。		今後も、地域と行き来しながら、さらに交流を深めていかれることが期待される。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会での話し合いが行われているが、まだ取り組めていない。		運営推進会議などを通じて、地域の役員・町の担当者 と話し合い、交流が図れるよう努めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価を実施することで、日々の業務を振り返り問題点・改善点が見えてくる。職員間・施設全体での話し合いの時間を持つことで、職員の意識向上に繋がる。評価を活かして具体的な改善に取り組み、利用者の支援に繋げていく。 (外部評価) 職員で話し合い、自己評価に取り組まれた。前回の評価結果を受けて、地域に開かれた事業所を目指し、まずは、同建物内の併設施設と事業所を区切る扉を開放された。開放的な環境となり、事業所を訪れる方も増えた。		自己評価に取り組む際、事業所で気付かれたことは改善への最大の起点でもあり、評価結果について話し合いを重ね、実践につなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			2ヶ月に1度開催している。事業所での取り組み・テーマについての話し合いを実施し、利用者・家族の要望を聞いている。 また、家族・各担当者からの意見を職員間で共有し、話し合い・実行している。		
			(外部評価)		
			会議には、地域の方や支援センター、ご家族等、いろいろな立場の方に出席いただき、開催されている。事業所の行事についてもアイデアをいただいた。		さらに、出席者の方達と活発に意見交換を行い、出させていただいたご意見を、事業所のさらなるサービスの質の向上につなげていけるような取り組みも、すすめていかれてほしい。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			介護相談員が月に1度来所され、利用者・職員との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		事業所の行事の際には、各担当者を招待し、利用者の方々の日々の生活を見ていただき、交流を図れるようにする。
			(外部評価)		
			月に1度、介護相談員の訪問があり、利用者とお話をされる等、事業所内で1時間程度過ごされている。「開放的なホームで、職員も元気がいいですね」と感想をいただいた。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			ホーム内掲示板に資料や相談窓口など掲示しているが、入所時等ご本人及び家族等に対する説明が十分に行えておらず、制度の活用推進が出来ているとは言えない。		全職員の研修及び勉強会を実施し、制度への理解を深める。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過されることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			スタッフ会・法人全体の会議等で虐待の有無についての報告を行っているが、高齢者虐待防止関連法についての勉強会などは行っていない。		全職員の研修及び勉強会を実施し、制度への理解を深める。研修及び勉強会を実施し、制度への理解を深める。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項説明を十分に行い、家族・利用者とともに納得のいくまで話し合いを実施している。退所時には、家族・利用者・その他の関係者と十分に話し合い、バック体制を整えている。また退所の際には介護添書の作成・援助計画書の添付などを行っている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月に1度来所される介護相談員が利用者へ声かけを実施しており、町の方へも報告書を提出している。介護相談員は法人の苦情・要望解決委員会の第3者委員としても協力を得ている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1度「玉泉便り」を配布し、健康状態・暮らしぶりや職員の紹介を含め報告している。面会時には、職員が日々の様子を細かく報告している。また金銭管理については、「預かり金使用報告書」を作成し家族へ報告している。 (外部評価) 事業所での生活のことや職員の写真等を入れた便りを作成し、ご家族に近況を報告されている。毎週来訪のあるご家族や仕事前に立ち寄って下さるご家族もあり、その都度、報告を行い、ご家族のお話を聞いておられる。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームエレベーター前に苦情受付箱を設置し、月に1度介護相談員の方々に報告している。現時点で苦情の報告はない。苦情が寄せられた場合は、マニュアルに沿って速やかに対応・回答を行う。法人全体としても要望・苦情解決委員会を開催し、頂いた要望・意見が反映できるようにしている。 (外部評価) ご家族の来訪時や便り等でも意見を出していただけるよう、働きかけておられる。苦情受付箱の設置や要望・苦情解決委員会を法人全体で開催しておられる。		事業所では、「苦情が出ない=苦情が無い」とは考えず、今後もご家族が言いやすいような環境づくり等を工夫していきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人側、かつ管理者との話し合いの場を持ち検討している。 自己申告書の活用・スタッフ会での要望・提案について書類を提出後、職員との話し合い検討・実施している。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員の勤務時間については早朝から夜間まで利用者に十分なケアができるように体制を整えている。 日勤2名以上、夜間1名の職員配置。 家族の面会時間を定めず、家族の生活時間に対応できるようにしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 自己申告書により職員の異動・離職希望については把握し、職員の離職等最小限に抑える努力をしている。また利用者に影響が無いよう常にホームへ訪問し、話を聞いたり、声掛けを行うようにしている。		
			(外部評価) 法人内の施設に異動された職員が、事業所を頻繁に訪れてくれている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を設け、職員を段階に応じて資格が確保できるよう援助し、個々のスキルアップに繋げている。		
			(外部評価) 職員は、法人内での研修を受けておられる。年間でスケジュールが分かっている外部研修を受講されている。		さらに、すべての職員が段階に応じて外部研修を受ける機会を作ってはどうか。職員のさらなるレベルアップからも事業所のサービスの質の向上を目指していかれてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市町村の開催する研修に出来る限り参加している。管理者は「グループホーム管理者交流会」などに参加し、他のグループホームとの意見交換を行っている。職員はグループホーム相互訪問交流に申し込み、職員の派遣・受け入れについて話し合いを進めている。		平成19年度には職員1名が相互研修に参加し、他施設との交流を図っている。今後も継続して交流が図れるよう支援している。
			(外部評価) 法人内の事業所との意見交換もあり、意見や助言をいただける機会となっている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員が悩み等相談できる場所・人材を確保している。園庭の整備・「おもや」(喫茶・食事処)の建築など職員が業務以外でも安らげる場所の確保が出来ている。 休憩時間も職員と相談の上確保し、自由に休憩が出来るよう配慮している。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者はホームを訪問しては、職員に声かけを実施し、日々の業務についての報告を聞いている。年に2回の自己申告書等により本人の希望・実績・個々の努力について把握している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所申し込み時、家庭への訪問を行い、本人とゆっくり話す機会を設ける。 体験入所などを実施し、会話や行動より悩み・不安な事などを汲み取る。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家庭への訪問・事業所への訪問時家族が困っている事・求めていることを聞き出し、受け止められるよう対策を検討している。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人・家族に最も必要な事を見極め、事業所全体・他業種の方々の意見を仰ぎ、幅広い視野から対応を検討していくよう努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前には、事前に体験入所を実施し、ホームや他の利用者と馴染めるよう環境を整えている。		
			(外部評価) 入居前に、事業所を見学いただいている。又、泊まりや入浴を体験される等、生活の雰囲気を感じていただき、納得の上、入居できるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理作りを一緒にしたり、行事の作法等についての助言を頂いたりすることで喜怒哀楽を共にしている。利用者に温かく接し、学んだり支え合ったりしている。		
			(外部評価) 料理が得意な利用者が多く、利用者が主になって食事の支度をされていた。職員は、料理方法等を教わることが多くある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の暮らしや生き方を理解・尊重することで、家族と情報を共有し、信頼関係を築いていく。行事等には職員と一緒に参加して頂き、喜怒哀楽を共にし、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族が長年築いてきた関係を理解し、信頼関係が壊れないよう面会時・行事等に参加される中で、利用者と家族の橋渡しとなれるよう声かけや日々の生活での変化をこまめに報告している。		家族・利用者との密な関係を壊さないよう家族参加型行事を多く計画し支援する。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との繋がりを大切にし、交流する機会を多く持つようにしている。 馴染みの方々との連絡・交流が途切れないように通信・手紙などを活用している。		利用者の方が生まれ育った場所やなじみの場所をドライブなどで訪れることにより関係が途切れないよう支援する。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士で話し合えるような話題を提供したり、料理や行事への参加を促している。 常に見守りを行い、トラブルになりそうな場合は、職員が間に入り孤立しないよう配慮している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 同施設の他事業所を利用される方には、定期的に訪問し、親しい関係を維持できるよう努めている。 他施設・家庭に戻られる方々には、家族・利用者が孤立せず、様々なサービスが受けられるよう情報の提供を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			利用者の障害が進むにつれて変化があり、本人の意向を把握出来難いこともある。 職員が利用者と深くかかわることで、利用者の意向をくみ取れるよう努めている。		
			(外部評価)		
			職員は、日頃の会話等、利用者とかかわる中からご本人の思いの把握に努めておられる。又、意思表示のむつかしい方は、ご家族から以前の暮らしのこと等をお聞きし、相談しながら思いの把握に努めておられる。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居前や面接時・日常生活の会話等に本人や家族から生活状況を伺い、それまでの暮らしや生き方を尊重できるように把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			一人ひとりの利用者とかかわる中で、生活リズム、心身状態の把握・「出来ること・出来そうなこと」の把握に努め、職員全員が情報を共有するよう連絡ノートの活用 スタッフ会での話し合いを進めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			利用者及び家族と話し合い、要望・希望を取り入れながら、介護計画を作成している。 月に1度のスタッフ会で、利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、意見を出し合いながらカンファレンスを行い、内容の共有を図っている。		
			(外部評価)		
			ご本人の希望やご家族の意向、職員の気付き等を取り入れ、介護計画を作成されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			実施期間終了時、及び状況の変化に応じて見直しを行っている。 3ヶ月に1度はカンファレンスを実施している。 月に1度のスタッフ会には、援助の経過について話しあっている。		
			(外部評価)		
			利用者の状態に応じて見直しを行ってられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個別にファイルを作成し、日中は黒、夜間帯は赤で記入し誰が見ても分かりやすいように日々の現状を記録している。また連絡ノートを活用したり、口頭での申し送りを徹底し情報伝達が確実に出来るようにしている。介護計画については、毎月1回のスタッフ会にて確認・評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			総合福祉施設という利点を活かし、本人・家族の要望に対して、他事業所・他部門の職員の助言を頂き、柔軟な対応が図れる。		
			(外部評価)		
			地域の方がご家族の介護のことや認知症のことについて、相談に来られることもある。併設施設にカラオケを楽しみに行かれたり、時にはおやつを一緒に食べることもある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎月介護相談員の来所・警察学校のボランティア・年2回の消防訓練等実施している。 学生やその他各種ボランティア等の受け入れたり、近隣の幼稚園などとの交流で広がりのある生活ができるよう支援しているが、近隣の方への働きかけが少ない。		自治体への参加を検討。公民館や集会所等への働きかけを行う。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 施設内他事業所のケアマネジャーとの意見交換を行っている。 通所介護事業開始にあたり、他施設のケアマネジャーとの交流を図っているが、他のサービス利用にまでは至っていない。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 2ヶ月に1度開催している運営推進会議に参加していただき、意見等伺っている。		日常的に連携が図れるような体制を整える。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時に、入居者・家族等の希望を聞いている。 契約しているかかりつけ医院が10分くらいの所であり 電話やメールで連絡や相談ができるようになっている。 (外部評価) それぞれのかかりつけ医の受診時、時には事業所の看護師が同行し、医療機関と連携を図っておられる。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医院の医師による相談・診断・治療が受けられる。 また必要時には往診も可能である。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの職員及び他事業所の看護職員と連携を取りながら、利用者の健康状態について相談を実施している。		看護師免許保持のホーム職員と他事業所の看護師との連携を取り、相談・指示を仰げる体制を取っている。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時にはこまめに病院（担当医）や家族と連携を取り 早期退院のための話し合いや協力を行っている。 利用者が安心して病院で過ごせるよう頻回にお見舞いに伺い、精神的安寧が図れるよう努めている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化・終末期の在り方についてかかりつけ医の了承は得ているが、本人・家族・かかりつけ医との具体的な話し合いは持っていない。 (外部評価) 法人内の施設に移る場合もあるが、利用者、ご家族と話し合い、支援されている。		重度化した場合・終末期の在り方について本人・家族の希望を聞き、今後の方針を検討する。 スタッフ会にて話し合いの場を持ち、具体策を検討する。事業所全体で情報を共有し、本人・家族の要望に沿えるよう配慮する。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 現時点では重度化・終末期における支援について話し合いの段階であり、具体的な準備は出来ていない。 事業所として「出来ること・出来ないこと」について法人・ホーム職員で話し合いを継続的に進め、指針を明確にするよう努める。		重度化・終末期におけるマニュアルを作成する。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者による十分な情報交換を行い、利用者には環境の変化によるダメージを与えないよう努めている。		援助計画書の添付等実施している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 個々の人格を尊重・尊厳が守れるよう配慮し、温かくゆっくりとした口調で声かけするようにしている。居室に入る際には必ずノックを行い、本人の了承を得てから入室するようにしている。記録に関しては個人名を記載したりせず、プライバシーに配慮している。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>			<p>(自己評価) 日常生活において自己決定を尊重しており、本人の希望や意見を取り入れている。声かけも決めつけるようなことをせず、利用者に納得・決定していただくようにしている。障害が進むにつれ、入居者自信が選ぶことが日常的に少なくなっている方もおられる。</p>		<p>言葉での意思表示が難しいときには、日常の言動や行動をくみ取ったり、日々の言葉に耳を傾けたりして援助する。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 1ヶ月の行事・1日の大まかな日課は決まっているが、毎朝の健康状態を把握したり、本人の希望を聞くことで外出などを適宜行える体制を取っている。</p>		
			<p>(外部評価)</p>		
			<p>利用者の体調や状態等も踏まえて、それぞれのペースで生活できるよう支援されている。食事時、職員は、個々のペースや全体の雰囲気気を配り、「ゆっくりね」と声をかけておられる様子うかがえた。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>(自己評価) 家族と相談し定期的に美容院を利用している。毎朝モーニングケアを実施し、清潔保持に努めている。衣類は、本人と一緒に確認しながら選び、季節に応じた身だしなみ・おしゃれが出来るようにしている。</p>		<p>家族と連絡を密にし、季節に合った衣類・好みの衣類を購入していただき、身だしなみを整えている。</p>
54	22	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>(自己評価) 入居者とともに買い物・献立作成・調理を可能な限り行っている。入居者・家族の意見を参考にし、好物の料理・誕生日料理・季節の行事食等の調理を行っている。食事の際には音楽を流したり、職員と会話をしながら一緒に食事が楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者と職員で協力して食事作りをされている。又、片付けも協力し合って行なっておられた。利用者のお好きなものを作られたり、クリスマスにはケーキの土台に利用者個々がトッピングをされた。</p>		<p>栄養士による献立チェックや栄養指導を不定期だが行っている。 厨房料理長に料理指導をしていただいたり、一緒に行事食を作ったりしている。</p>
55		<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 入所時、日々の生活の中で入所者の好みの物を職員が把握し、一人ひとりの状況に合わせて楽しめるようにしている。</p>		
56		<p>気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄リズムを把握し活用している。他利用者に配慮しながら声かけ・トイレ誘導を行い、排泄の失敗がないようにしている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日お湯を沸かし、健康状態に異常のない方は入浴できるようにしている。マンツーマン入浴を行い、希望者には入浴剤の使用や季節浴（菖蒲・ゆずなど）を行っている。夜間入浴を現時点で希望される方はいない。		夜間入浴を希望される方がいる場合は、勤務時間体制の変更ができるような体制を取っている。
			(外部評価) 体調や状態等も見ながら、無理強いせず、清拭等も取り入れ支援されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者全員ほぼ良眠されている。夜間眠れない方に関しては、昼間居室にて休息していただいたり、その方に合わせた生活時間（食事・入浴等）を過ごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 家族・本人より趣味・生活歴などを聞き取り、楽しみごと・気晴らしが自由に出来るよう支援している。料理や花、野菜の栽培・水やりなど一人ひとり役割を持っていただき、貼り合いのある日々を送れるよう支援している。		
			(外部評価) 花壇のお花を生けていただいたり、ベランダのプランターで野菜作りもされている。カラオケの好きな方、時代劇の好きな方、それぞれに楽しんでおられる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 預かり金（おこずかい）を職員が管理している。買い物時等には個人に合わせて金銭管理をしていただき、援助している。 日頃からお釣りの計算や紙幣の枚数などを数えていただいたりして、おかねの価値観を感じていただいている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 朝・夕に施設外の散歩を実施している。(体調考慮する) 買い物の同行・施設の近隣にある神社・幼稚園への訪問 など個々の希望により外出の機会を設けている。 日常の会話の中で個々の希望を聞き、ドライブや外食など要望に応じた計画・実施が出来ている。 (外部評価) 毎日、庭を散歩することが日課になっている。庭には狸ロードや狸神社が造られてあり、たくさんの樹木や草花が植えられている。敷地内の喫茶店「おもや」でお茶も楽しめるようになっている。毎日の近所の神社や幼稚園への散歩を楽しみにしている方も支援されている。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人・家族等と話し合い、健康状態等考慮しながら訪問 出来るように支援している。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙の返事などは、援助を最低限に抑えて、できるだけ本人に行って頂くようにしている。 はがきや封書など必要物品は利用者とともに用意するよう配慮している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族等馴染みの方々がいつでも訪問出来るよう面会時間を定めず、専用玄関・夜間照明等を整備している。 訪問時には家族だけで話せるよう場所を確保しており、お茶等の対応も完備している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、廃止委員会を月に1度開催し、職員の意識向上を施設全体で取り組んでいる。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入所時に鍵をかけないことを家族等に説明し、常にだれがどこにいるか把握・確認し職員同士で声を掛け合っている。安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。 (外部評価) 併設施設への出入りを自由にできるようにされている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者がホール内に居られる時は、職員が常に見守りを行い、所在を確認している。 居室に居られる時は、必ずロック・声かけを実施した上で定期的に訪問し、安全を確認している。 夜間は定期的に巡回を行い、身体状況の確認を行っている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品に関しては、一人ひとりの状態に応じて対応している。説明にて理解不能な方には、十分な説明の上安全を確認しながら、職員とともに使用するよう徹底している。 薬・危険物等の管理は職員が管理し、管理場所は一定とし常に確認を実施している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、職員全体が周知徹底するよう他事業所の看護師の協力を得て、スタッフ会などで定期的実施している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の救命救急講習を母体施設と共に職場内研修にて実施している。他事業所の看護師の協力のもと定期的に勉強会を実施している。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 法人として年2回消防署による日中・夜間帯を想定した避難訓練を実施している。 独自の災害マニュアルを作成し掲示している。		
			(外部評価) 法人全体で年2回の避難訓練を行っておられる。実際に利用者の方も一緒に外階段を利用し、避難訓練をされた。近所に民家が無いので、法人内で災害マニュアルを作成し、全体で協力し合えるシステムを作っておられる。倉庫には保存食も準備され、避難訓練時には地域の方々と一緒に実際に火を熾し、釜戸でご飯を炊いてみられた。		さらに、今後、車椅子を利用されている利用者も安全に避難できるよう、訓練を重ねたいと考えておられた。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりに起こり得るリスクについて、面会時・運営推進会議等で家族に随時説明している。 利用者に起こり得る心理機能・身体機能の変化を見逃さないよう注意・観察し、機能が向上出来るようスタッフ会等で話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 年に2回の定期健康診断を実施し、結果を家族・担当医に報告している。 1ヶ月に1度はかかりつけ医の検診を受け、健康状態の把握を行っている。 毎朝健康チェックを行い、記録を残している。異常時には、家族と相談・連携を取り早期受診を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表を作成し、掲示することで職員全員が把握出来るようにしている。 服薬時には本人確認・薬の裏の名前確認を行い、スタッフルームにて管理し、誤飲がないようにしている。 利用者の症状の変化については、かかりつけ医の指示を仰ぎ、服薬支援を行っている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で排便を確認している。 排便のない場合は、水分摂取・ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取、散歩などの適宜な運動、個々に合った下剤などを主治医と相談しながら排便コントロールを行っている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い見守り・介助している。 就寝時には義歯の洗浄を行っている。	*	口腔内の異常を早期発見・治療するために年1回の定期健診を実施し、不定期に歯科医の往診を受けている。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや食事量を把握し、毎食の食事量を記録することで、栄養・水分が摂取できるよう配慮している。 食事中は音楽を流したり、職員との会話を楽しみながら食事が摂取できるようにしている。 職員が同席することで、食べこぼしや同じものだけ食べることをないように努めている。 (外部評価) 食事量を記録して、栄養摂取状況の把握に努めておられる。又、好きな飲み物等も採り入れ、水分を確保できるよう取り組まれている。		今後、法人内の管理栄養士にメニューチェックをお願いしたいと考えておられた。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染対策マニュアルを完備し、月に一度の感染対策委員会での報告、朝礼での状況報告を実施している。 手洗い・うがいの励行に努め、家族と相談し予防接種等受けていただいている。 年に1度は専門の業者による感染予防の講習を行い、職員の意識向上に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 感染予防としての衛生チェック表を作成している。吐いたーによる台拭き・調理器具の消毒を行い、冷蔵庫内・手すりなどの清潔保持のため、毎日拭き掃除をしている。 食材は必要分だけ購入し、賞味期限に気をつけて使いきるようにしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 総合福祉施設の2階にあるため、家庭的な玄関は構造上難しい。 グループホーム独自の看板・2階への誘導看板を設置し 玄関前に花や椅子をおいて、気軽に入れるような雰囲気を作っている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者が集まるホールには丸いテーブル・畳を設置し、見やすい位置に時計・カレンダーを設置している。 冷暖房等の温度調整・カーテンの開閉による日差しの調整などを適宜行っている。 季節行事にかかわる作品を展示したりして、生活感・季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 利用者皆でゆったり座れるよう、丸いテーブルに替えられた。時代劇やスポーツ観戦がお好きな方が多く、テレビの前には大きなソファが2つ置かれていた。エレベーター内にもベンチが置かれており、利用者が暮らしやすいような設備や配置への気配りがうかがえた。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホール内にソファ・畳コーナー・テーブル・椅子・観葉植物を配置し、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入所時本人・家族の希望をお聞きし、洋室・和室の選択を行っている。 使い慣れた生活用品等を自由に持ち込んでいただき、家庭的な雰囲気作りを心がけている。		居室が就寝の場だけの力方も居られるので、家族・本人と相談しながら、趣味や癒しの場になるよう家具の設置等検討していく。
			(外部評価)		
			使い慣れたタンスや椅子を居室に配し、手作りの絵のカレンダー、写真が飾られていた。おしゃれに関心のある方は、お気に入りの洋服や帽子をかけておられ、居室の窓からご自分で布団が干せるようになっていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			毎日1回以上は必ず空気の入替えを行い、カーテンの開閉により日差しの調整を行っている。 温度調節は利用者の状況に応じて調節し、体調に変化の無いようこまめに調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			ホーム内を安全に矛・移動できるようソファなどの家具を配置したり、手すり・マット・踏み台など安全設備を充実させている。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			一人ひとりの生活歴を把握し、利用者が出来ること・得意なことを行って頂き、自信を高めるよう努めている。 トイレなどには場所が分かるよう大きく紙で掲示している。 職員はその方のペースに合わせて温かい声かけ・見守りを実施し、常に感謝の気持ちを持つようにしている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			ベランダで花や野菜の栽培ができるよう整備したり、水やりなどで出入りが自由に出来るようドアを開閉している。 季節・天候に応じてベランダでの食事会・お茶会などを実施している。 園庭に専用の畑を確保し、活動できるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入所時、日々の生活の中で得た情報を理解・把握し、利用者が望む生活ができるよう職員間で話したり、家族の協力を得ている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時・3時には職員と利用者が同席してお茶を飲み、会話を楽しんでいる。居室で一緒に本を読んだり、ゲームをしたり、世間話を聞いたりとその方に合わせた過ごし方を支援している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常のスケジュールは決まっているが、起床・食事・臥床・就寝に関して利用者一人ひとりのペースで生活していただいている。他利用者・時間のスケジュールに合わすのではなく、利用者本位に行動していただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者は、職員が一人ひとり暖かくゆっくりとしたペースで接することで、穏やかに生活されている。できることは自分で行い、過去の生活歴を活かした援助で自信を持ち、生き生きとした表情を見ることが出来る。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外への外出希望を出される方があまりいない。入所前の習慣で定期的には外出される方や、家族が頻回に来所され散歩や喫茶店への同行をされる方が何名かおられる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	年2回の健康診断・月1回のかかりつけ医院での受診などで健康管理は行っている。日頃の些細なことでも、かかりつけ医とのメール・電話などで連絡が取れ、不安なく過ごせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	法人・他事業所の職員・かかりつけ医の協力を得ながら、その都度話し合い、最善の対応が取り組めるよう支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時家族と話し合う機会が増え、利用者の日々の生活を報告することで最善の関係が築け、家族の方々の笑顔が見られる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ほとんどない	利用者の馴染みの方(親類等)・他事業所職員が時々来られるが、地域の人々が集う事は殆どない状態である。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② 1 大いに増えている ② 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議に出席して下さっている地区の区長・介護相談員の方より行事等の情報を提供してもらっている。 地域行事に参加することで、地域住民が事業所に対する興味を抱いていただき、気軽に声をかけてくださるようになった。
98	職員は、生き活きと働けている (自己評価) ① 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員全員が理念を共有し、利用者一人ひとりの援助に対し、自分なりの意見や要望をくみ取り、実現に向けての取り組みが評価されるようになったため、職員は生き活きとはたけらなくなった。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ① 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者一人ひとりが自ら積極的に行動され、自信を持たれている。 ゆったりとした時間の中で会話を楽しみ、一日中笑顔が絶えることのない状況である。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ② 1 ほぼ全ての家族等が ② 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時・運営推進会議参加時、家族との会話の中で、サービスに対する感想を頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

職員が理念を理解・把握し全員同じ気持ちで援助が出来ている。常に話し合い、利用者本位での支援・利用者寄り添ったケアができるように心がけ、様々な習慣・行事等を計画し実施している。
 職員は利用者を自分の家族と同じように暖かく接し、喜怒哀楽を共に味わえるよう日々の生活を援助している。
 利用者は自分で出来ることを確認し、料理・掃除・洗濯など家事全般を職員とともに行っている。
 自然豊かな施設周りの環境を活かして、利用者が生きがいや気分転換を図れるよう散歩や外出の機会を多く持っている。
 園庭・ベランダで野菜作りをしたり、「おもや」で食事・おやつを食べたりと利用者・家族と交流が図れる場所がある。
 平成20年4月1日よりグループホーム共用型通所介護事業をスタートし、地域の方がデイサービスに来られるようになった。利用者の方々と共に会話を楽しんだり外出することで利用者・デイサービス利用者双方に新しい刺激となり、生き活きとした生活が送れている。